

2020年北里大学医学部脳神経外科教室紹介  
主任教授・隈部俊宏

皆さんこんにちは。北里大学の隈部です。この度は脳神経外科に興味を持って頂いたことに感謝します。

私は昭和37年生まれです。第二次世界大戦が終わってわずか17年後に生まれています。私は現在58歳で中学校を卒業してから43年経ちました。また医者になってから34年が経ちます。ちなみにですが、織田信長が今川義元を桶狭間の戦いで破ったのが1560年です。そして徳川家康が征夷大将軍に就いて江戸幕府ができたのが1603年です。この間がちょうど43年です。織田信長は本能寺の変で、明智光秀に倒されました。1582年です。22年間織田信長は一世を風靡したことになります。これを長いと捉えるか短いと捉えるか、皆さんはどう思いますか。ちなみに現在の総理大臣である安倍晋三さんは、総理大臣の在職期間はおよそ8年間です。これは総理大臣として最長となっています。総理大臣と戦国時代のトップとはかなり違いますが、あれだけの戦いが続いた中で22年間もトップにいたのは、私としては長い時間と感じます。織田信長が倒された後は、豊臣秀吉が日本をまとめました。豊臣秀吉は1598年に病死しています。従って天下人として存在していた期間は16年間です。人間の感覚というのはいい加減なもので、私としては、織田信長はあっという間に時代を駆け抜けて殺されてしまい、豊臣秀吉はより長い期間世の中を修めていたと感じていました。そして最終的には徳川家が泰平の世を作った訳です。

私の中学校時代というのは戦後30年に相当します。中学生当時にはこう言った時間感覚が全く分かりませんでした。というよりもわかるはずがないのですが、私が子供の頃の日本は本気で「終戦後の日本を良くしよう」という気持ちで一致団結して力を蓄えていった時代だと推測します。あまりうちの親父とは接点がなかったのですが、尚更、「日本を世界一にするんだ」という親父の言葉を覚えているのは、考えると驚きです。昭和54年、1979年にJapan as number oneという本が発表されています。日本の高い経済成長を冷静に評価し、その基盤になったのは、日本人の学習への意欲と読書習慣であるとしています。ちなみにその当時、日本人の1日の読書時間は米国人の2倍もあったそうです。しかしその後日本は急落します。日本人は、安定期が続くと、方向性を見失いがちになる国民性を有しているのかもしれない。

逆に日本の強さは、災害を含めて本当に大きな問題が起きた時に団結して、同じ方向を見て、滅私奉公することができる国民性にあると思っています。現在日本は各国の成長に遅れをとって、多額の借金を抱え、様々な災害、そして今回はコロナウイルス感染問題で行き詰まっています。この逆境を糧として我々はもう一度「日本を世界一にするんだ」と考えるべきなのではないでしょうか。

### <北里大学医学部脳神経外科設立の歴史・沿革>

1970年北里大学医学部が創立され、脳神経外科学単位が開設されました。初代教授として北海道大学より矢田賢三先生が着任されました。3年後の1973年4月には北里大学病院脳神経外科診療も開始され、脳血管障害、中枢神経系腫瘍、脊椎脊髄・末梢神経系疾患の3つの大きな柱が確立されるに至りました。開設10年後には脳神経外科の年間手術件数が360件を越え、国内でもトップクラスの手術件数の多い施設に成長したのです。

膨張し続ける救急疾患に対処するため、1996年4月北里大学病院に救命救急センターが設置されました。当時脳神経外科助教授であった大和田隆先生が救命救急医学単位の初代教授ならびにセンター長に就任され、脳神経外科と救命救急センター脳神経外科との間での診療連携や人事の交流が活発化するようになりました。また地域の第3次救急患者は全て救命救急センター脳神経外科が対処することにより、適切・迅速な対応を目標としました。この結果、一刻を争う救命救急疾患と、データを積み重ね十分検討して診療・治療を行う脳・脊髄疾患とを分別し、疾患に応じた最適な対処が可能となりました。このようなケースは大学病院としては非常に稀であり、かつうまく運営されているため、全国医療施設のモデルケースにもなったのです。

1995年3月矢田賢三教授が退任され、6月に藤井清孝先生が2代目教授として九州大学より着任されました。運営方針として、北里大学出身如何に関わらず広く有能な人材を育成し、また対外的な人事・学術交流をこれまで以上に積極的に増やしていくことを掲げられました。

1998年4月北里大学病院の新棟完成以降、順次既存棟の整備が行われ、1998年12月には脳神経外科・神経内科・救命救急センターが連携した脳血管(脳卒中)センターが設立され、藤井清孝教授が初代センター長に着任されました。

藤井清孝教授は、脳神経外科教室の運営とともに北里大学病院の運営にも関わり、2003年4月より北里大学病院院長を3期勤められ、医療安全体制の確立と新病院計画を進め、2011年9月には新病院の着工式となりました。

2012年3月藤井清孝教授が退任され、2013年4月に私が3代目教授として東北大学より着任しました。2014年4月より北里大学は現在の新病院へ移行しました。

### <その後7年間の北里大学医学部脳神経外科>

脳卒中センターは、神経内科教授・西山和仁先生と救急部教授(救命救急災害医療センター長)・浅利 靖先生との密な関連により成熟しました。多くの脳梗塞急性期患者を有機的・効率的に治療し続けています。閉塞性脳血管障害に対する血管内手術数は、神奈川県内のトップランクを維持しています。さらに破裂・未破裂脳動脈瘤・脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻等を含めて、血管内治療数は平成26年以降飛躍的に増加し、その数が維持されています。出血性・閉塞性血管障

害に対する治療において、血管内治療と開頭による外科治療のバランスが非常に重要なテーマとなるのですが、当科では密な discussion を経て最も患者にとって低侵襲・高効率・最善の結果が得られる治療が行われているのが特徴です。大学病院としてこのような多数例の急性期血管障害、さらに頭部外傷を治療していることは非常に稀であるとともに、研修医の皆さんの教育においては極めて重要です。

悪性脳腫瘍・小児脳腫瘍症例数は高いレベルを維持しています。頭蓋内腫瘍摘出術は、平成 28 年度 98、平成 29 年度 110、平成 30 年度 106 であり、全国でも屈指の手術症例数となっています。また AMED の研究助成を受けて、「初発膠芽腫に対する可及的摘出術後カルムスチン脳内留置用剤貼付後放射線・テモゾロミド併用療法の有効性の検討:ランダム化比較第 3 相臨床試験」(JCOG1703 試験)の研究代表者として臨床研究を進めています。さらに近年、内視鏡手術・経蝶形骨洞手術・頭蓋底手術が増加しています。

また平成 30 年秋からキアリ奇形など頭蓋頸椎移行部の外科、腰仙部先天異常(二分脊椎など)の手術、水頭症・頭蓋内嚢胞性病変の神経内視鏡手術・機能的脊髄後根切断術・バクロフェン髄腔内投与療法等の小児神経手術を開始できるようになっています。

最後に、北里大学には 7 人もの女医さんが存在します。結婚・出産といったそれぞれの生活体制に合わせて診療を頑張ってくれております。女性脳神経外科医師としての様々な勤務体制を作り、全国大学病院脳神経外科のモデルケースとして提示することを夢見ています。

